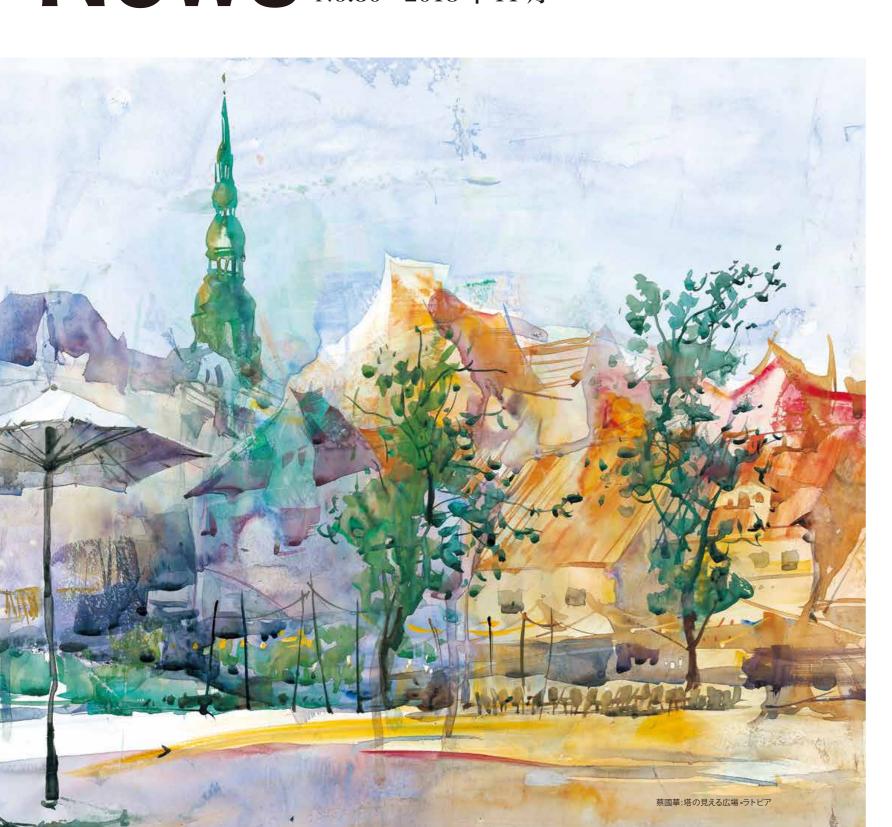
Kurilon Workshop No.30 2018年11月











2019年 卓上カレンダー

クリロンワークショップ代表 栗原明理作品の卓 上カレンダーを制作しました。

季節感じる華やかな花の絵「Flower」、静物画を中心とし、モチーフの面白さで毎月の変化が楽しめる「Season」の2種類のデザインです。

(デザイン:画空間 豊島 愛)







彩画による風景、

まで画空間にて開催されました。 品の展覧会が、8月31日から9月6日 を描く」と題した蔡國華氏のスケッチ作「エストニア・ラトビア紀行-バルトの国 は6月に行われたエストニア

と秋が短く冬が比較的長い国のようで候は日本と同じように四季があり、春 と呼ばれる内の2つの国で、 の東側に南北に並ぶ国になります。 バルト

中世の雰囲気が残るエストニアやラトて木々の緑がとても美しい時期です。 れた季節は、

ラトビアスケッチ旅行で描き留めた水 全12点を展示したも

に、多くの来場者が間近で食い入 使いといった臨場感あふれる作品 朝の市場の空気の色、細やかな色 天気でしたが、 光と風の躍る、蔡氏ななビアの重厚な街並みが、 展覧会初日は台風のあいにく 蔡氏ならではの水 街路樹の緑の

に想い起こされたとの感想も頂きお客様からは、現地の風景が一気お客様からは、現地の風景が一気のように鑑賞されていました。

今回の展覧会は幕を閉じました。 大好評の内に

ズ奏者の生き生きとした姿を描いた8作品た。今にも音色が聞こえてくるようなジャを情に展「Hibiki」が開催されまし

木裕子さんの朗読とのコラボレーションライ ブが行われました。想像力を駆り立てられる

turip によるクラシック名曲の演奏と青9月17日には「森の音楽会」と題したLa

いるようでした

絵画作品との協奏に

野首 恵子

期間中、

ある青木裕子さんに

和は贅沢なひと時でした。 朗読と迫力ある絵画、

そして優雅な音楽の

た画集も販売され、 スケッチ展ではこの風景を収め

日、長野県軽⁴ 2018年

井沢にある軽

東京営業課

ン。ポスターのように壁に飾ったの表紙を模したカレンダーデザイの強いジャズ演奏者の絵に雑誌

たはamazonで。詳しくお求めは画空間ギャラリー

リアのアクセントになります。り、テーブルに置いたりとインテ

で販売されます。

から開催されるカレンダー原画展ンダー」が、画空間にて12月5日

蔡國華「風景新作展」



エストニア・ラトビア紀行-バルトの国を描く

川賢作さんによるジャズの即興演奏「空をよス奏者の坂田明さん、ジャズピアニストの谷人の谷川俊太郎さんをゲストに迎え、サックはる「朝の朗読会」のほか、8月26日には詩

ン・フロンティア・フォ

ーラムが初の試みとして

また、毎年軽井沢で開催されているヒューマ

この素敵な展示空間の中で行われました。

恵子



▲軽井沢朗読館にて

について話し合いまし

面々。今年も9月にヒューマン軽井沢に集まるフロンテ

も9月にヒューマン・フロン

ム (HFF20

の取組から感じる社会と経済の潮流」午後は公民館に戻り「鎌倉投信10年り合いの難しさを皆で共有しました。 うこと~」をテーマに、地域との折物館~活動開始から20年目にして思 る話題提供と社会と金融の関わりにと題し、鎌倉投信社長の鎌田氏によ よる「高知県柏島 島がまるごと博し、黒潮実感センター長の神田氏に ついて深い議論を行 は場所を軽井沢朗読館に移

て走り続けてきた状態を振り返り、で14年目を迎え、フロンティアとしもの~」です。本フォーラムも今年

、フロンティアとし年フォーラムも今年

ム、今年のテーマは「起業とその 〜変わるものの中での変わらな

毎年恒例の二泊三日のプログ

題や展望を語り合いました。

一歩目とは違う現在の課

初日は軽井沢中央公民館に集ま

参加者の活動報告を

※ 持ち時間 5分報告を兼ねた自

最後まで白熱した議論を重ねまし最終日3日目は全体を振り返り、 の振り返り 一年後の再会に向け、 参加者はそれぞれ帰路に着心りと新たな活躍イメージを

田口

が続きました。その後、を1時間超える熱のこも

。その後、「人をつ。熱のこもった報告

はこのメンバーには短す己紹介でスタート。持ち

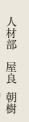
ぎ、予定

己紹介でスター

稿させて頂きました。技術者の現状と育成。 制度や仕組みについて紹介してお 対する考え、また社員育成に繋がるクリロン化成の人材マネジメントに 術の総合誌「包装技術」の特集、,包装 材育成のための制度と仕組み」とし、 日発行、 に、当社から寄 タイトルは「人 それ

体への貢献を目指しています。まぞれが会社での役割を担い、社会員一人一人が能力を発展させ、

けとなりました。 整理しまとめることで、当社の人材マネ 記事は人材部にて作成しましたが、文章に





クリロン化成

かけ声が響き渡ります

麗で本来の潮踊りを忠実に踊った』と評価を頂は『チーム力あり、唄あり、太鼓あり、衣装も綺 ンスも取り入れた結果、コンテストの審査講評で 73名で小樽の街を踊りました。新たなパフォ 参加しました。全国各地から社員が集い、総勢つりの潮ねりこみに、今年も「満ち潮隊」として き、昨年に続き全92チーム中、見事優勝。二連覇 第52回おたる潮ま

含めて3日間の短い滞在でしたが、 楽しく踊り歩くことができまし また沿道の方との触れ合 一体感を感じ、

